

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域・昔ながらのより良い馴染みの関係の維持に努め安心した生活が送れる様、取り組んでいます。	○	孤立することなく、地域の中に出向き、買い物や墓参り、敬老会への参加など交流を密に、継続して取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース会議の際、理念の確認を図っている。折りに触れ掲示による再確認ができる。	○	理念を念頭に置き、日々のケアの中から、振り返り取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット、ホーム便り、またホーム内にも理念が掲示されている。ホーム便りの写真掲載には、それぞれ理念の思いが育まれている。	○	毎月発行の広報誌に載せて、家族。地域への理解に取り組んでいきたい。また、ホームをよく知って頂ける様、顔見知りの関係を築いていきたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの立地条件が、近隣と離れている事もあり広報誌の配布の折に一緒に出かけて顔見知りの関係に努めたり、地域で買い物をしたり、またデイの利用者の方々や地域の方が会いに来られる事もある。	○	これからも継続して、地域へ出向く機会を増やし、より良い関係作りに努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、老人会の方の来所があり贈り物を頂いたりしている。敬老会の参加もある。また、地域の行事のへトマト・チョコ見学や、駅伝の応援も行っている。地区の中学生のボランティアの活動もある。	○	少しずつでも参加・交流の場面を作り出し行ける様に取り組んでいきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	広報誌での活用にて、ホームの理解に努めたり、実習生の受け入れも行っている。	○	継続して地域貢献ができる様、取り組んでいきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により、意義の再確認を行うとともに、サービスの質の向上へ活かすことができる様、情報共有に努めながら取り組んでいます。外部評価の結果は会議の折報告し、改善へ向け努めています。	○	課題についての具体策の検討、実践へ向け、職員間の更なる連携、意識付けを図ってきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予め資料配布を行い、利用者の心身の状況・行事の実施・計画の報告を行っている。また、前回の意見、要望を活かした取り組みに努めています。新年度は駐在所より参加して頂き、情報共有を図りました。	○	様々な意見、要望、情報交換を行いながらサービスの向上、地域、市町村とのより良い関係を築き、理解を深める事ができる様に取り組んでいきたい。2ヶ月に1回の避難訓練の計画。夕食会参加の呼びかけ。今後、利用者の参加も考慮したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出等により市町村へ出向く事はあるが、推進会議以外には、情報提供する機会はない。	○	事業所だけで抱え込まず、継続的な協働関係へ向け取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内部にて権利擁護制度の研修を講師の方よりして頂いた。会議の折に研修の報告を行い情報共有を図りました。	○	権利擁護制度の対応が必要な方は、現在はいないが、随時、必要と思われた場合は、職員との連携を図りながら支援につなげたい。また、継続的に勉強会に取り組みたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会があり、虐待に対しての会議により問題点、注意点を提起し、防止に取り組んでいる。また、内部研修やケース会議の折、再確認に努めている。	○	今後も継続して、情報交換を密に行いながら、取り組んでいきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等が安心、納得される様に出来る限り説明させて頂いている。また、重度となった場合にも職員も含め、不安軽減へ向けた取り組みに努めている。	○	信頼関係を保ち、安心、安全な対応が図られるよう今後も取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる雰囲気作りや声掛け、心配りに配慮し職員からの情報収集による検討を行いながら、本人からの意向、苦情等、真摯に受け止めその都度、対応に努めている。	○	不満、苦情等が蓄積される事がない様に常に配慮し取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報(ホーム便り)、実行表、夕食会、面会時、電話 または訪問時などに報告している。(写真の送付、ビデオ鑑賞など) 健康状態などは、随時変化時には、連絡をとっている。	○	心身の状況の変化等、安心して頂ける様に、継続して取り組んでいきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望、不満など発生した場合は、職員との随時検討を実施し、その対応策を早期に取り組むように努めている。いつでも相談できる雰囲気作りを心掛けている。(面会時の接待、声掛け等)	○	より良い接遇を心がけ、職員の誰とでも気軽に話して頂ける様、努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、何気なく相談できる雰囲気作りを努め、運営に反映できる様に配慮している。また、会議などの際に意見、要望を話して頂いている。	○	職員誰もが自分の意見を出すことができる様、コミュニケーションを大切に取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予め分かっている場合は、職員に同意して頂き、緊急事態など発生した場合は、その旨を理解された上で職員同士がお互いに助け合っている。	○	安心、安全な生活を過ごす事ができる様、調整を図る。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動などにより代わった場合でも、馴染みの関係が断ち切れない様に、関連施設での受け入れ体制や顔見知りによる関わり等、混乱を防ぐ対応に配慮している。	○	安心して支援が受けられる様、馴染み、顔見知りの関係に努めていきたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員毎に応じた研修の計画を立てており、出きるだけ参加できる様、確保を図り順次、受講されている。	○	全ての職員が研修の機会、確保ができ意欲、向上に繋がるよう取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会があり、定期的に事例検討会へ参加しており、他事業所との交流、情報交換に努めている。	○	職員間での交流する機会が少ない為、今後、他事業所と連絡を取り、相互訪問・見学の計画、実施を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談や食事会等のおり、ストレス・悩みの把握に努めている。また、内外での勉強会を実施し、心身面の安定に取り組んでいる。	○	目配り、気配り、心配りに努めながら、また職員間でのコミュニケーションを図りストレスが蓄積にならない様に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力開発シートによる評価を行い、自らの意欲、更なる向上へ働きかけができる様、取り組んでいる。	○	職員の努力を評価し、随時状況の把握に取り組んでいく。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が相談できる雰囲気作り、ゆっくりとした時間の確保、傾聴に努めている。また、個々の表情、行動等の変化等職員間で情報共有しながら取り組んでおり随時、不安の軽減に努めている。	○	本人が孤立しない様、「今」の状況を見据えた対応策を図り、本人、家族との信頼関係に努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の取り巻く問題、悩みを職員間で把握し、いつでも家族の相談、理解に努めその対策を図っている。	○	家族の真の思いを発する事ができる様、不安が安心に繋がるよう努めていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況の変化を職員間で把握し、随時、必要とされている思いを受け入れ対応策を図っている。状況に応じ、他者の事業者との連携も取り組んでいる。	○	必要とされている状況対策を図る上で、様々な関係者との連携に努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	予め家族、ケアマネと相談し、施設の状況を理解して頂く為に、ホームに来所され見学、職員との会話、利用者との挨拶等、触れ合いながら不安の軽減に努めている。	○	安心して利用開始できる様、ホームをより良く理解して頂く為に、連絡調整を図り、家族、本人との受け入れ対策に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の能力を見出し、先輩としての敬意を大切にしながら、威圧感を抱くことがない様に場面作りや、声かけに配慮している。	○	できる事・思いを大切に、お互いが支え・支えられる関係を築くことができる様、留意したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの発信を受けとめ、お互いに協力しあいながら、随時、連携を図っている。	○	家族との連携を図り、より良い信頼関係を築きながらの支援へ取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員間での情報交換を行いながら、面会の機会に状況報告をしたり、電話、訪問、お便り等で途切れない関係作りに留意している。	○	定期的に情報提供を行いながら、気軽に往来ができる様、努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事、墓参り、関連施設での顔見知り、知人との関わりや買い物等に出かける等、関係作りを図っている。	○	継続して、交流する機会の場の確保、支援に配慮していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員間での情報共有を密に、利用者同士のトラブルを察知し、会話、行動の見守り、個々のコミュニケーションを図りながら、孤立しない様に配慮している。	○	利用者同士の受け入れができ、和やかな雰囲気継続できる様、連携を密に取り組んでいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状のやりとりや、外出先での会話、声掛けなど大切にしている。	○	契約が終了しても、培われた関係を大切に継続的な付き合いができるよう図っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求めて、どんな事をしたいのか職員同士日頃の関わりの中で、思いを探り、受け止めながらその、把握に留意している。また、表情や行動等に目配りし検討に努めている。	○	本人との会話、コミュニケーションを図りながら、その思いを表現することができる様、配慮したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、本人からの会話や、家族、知人等からの情報を頂きながら、把握に努めている。	○	本人、家族との信頼関係を築き、プライバシーに配慮しながら、生活史の把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい生活のペースを理解し、好きなこと、したい事、できる事など行動や、会話等により受け止めながら、職員間で把握する様に配慮している。	○	個々の生活が、安心安全を維持できる様に、全体像の把握に努めていきたい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、家族、職員の気付きや意見など聴き、話し合いながら、介護計画の作成に活かしている。	○	本人らしく、より良い暮らしができる様に、気付きや意見を反映させる様に取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行い、途中で変化等が生じた場合には、検討し対策を図り、計画作成に努めている。	○	心身の状況の変化に応じ、随時検討をおこない、アセスメント、介護計画への反映へ取り組んでいく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況等の様子を個々の介護計画実行表へ記載し、その変化等に応じた検討を行いながら、介護計画へ取り組んでいる。	○	職員間の情報共有を行いながら見直し、評価をケアに活かしていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅で暮らす認知症の利用者に、自宅での生活が困難になった時、顔見知りや馴染みの職員のいる環境へ導く配慮を行っている。	○	状況の変化に応じた暮らしが安心してできる様なサービスの支援に努める。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学生によるボランティアによる支援を頂いている。	○	地域の人達とのより良い環境作りを大切に、連携を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の心身状況の変化に応じ、その人にとり安心安全な支援に向け、随時検討し対応を図っている。	○	利用者の状況や希望に応じて、ケアマネや事業所との連携を図っていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護などの説明はしているが、取り組みはされていない。	○	今後、必要に応じて協力し利用できる様に努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時受診が必要となった場合など、本人・家族の希望を伺い、医療機関との情報提供を図り受診されている。	○	安心して、健康管理ができる様、本人、家族、医療機関との連携を密にはかかっていく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診により本人、家族、職員との関わりの中で、心身状況を理解して頂き、変化時に於ける相談、助言、受診等おこなっている。	○	心身状況の安定を図る為、密に情報提供をおこないながら、安心した治療が受けられる様、医師との連携に努める。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関連施設の看護師との情報共有をおこない、相談、助言を頂きながら、健康管理に留意している。また、協力医療機関の看護師との連携もあり、気軽に相談ができている。	○	日常生活が安心して過ごせる様、緊急時の対応や医療機関への早期の対策が図れる様、取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関へ赴き、随時心身状況の様子を伺いながら早期に以前の生活へ復帰できる様、情報提供を図っている。	○	相談、助言を頂きながら、本人、家族の不安の軽減に努め早期回復に向け医療機関との連携を密におこなう。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を確認し、医療機関との情報共有をおこない、その人にとって最善へ向けた取り組みができる様、対策を図り、職員間での方針の共有をしている。	○	本人を取り巻く家族、関係者との情報共有を図り、一貫した方針へ向け取り組んでいく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	早期の段階で本人、家族が安心できる様話し合いをもち、医療機関の支援体制の周知、事業所の受け入れ態勢の状況を確認し、家族との理解、より良い関係に努め支援している。	○	重度化になっても、本人、家族が混乱することなく、安心した暮らしができる為に、日頃より家族、医療機関との支援体制の検討を図る。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人に関わる関係者間での情報交換、話し合いを行い、心身の安定に配慮している。	○	情報交換、十分な話し合いを密に、精神的混乱を防ぐ様、取り組んでいく。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の介護の中での対応が個々にとり、傷つけたりしていないか、気付きなど会議の折、検討を図り、職員全員が利用者の尊厳を守るよう取り組んでいる。	○	個人のプライバシーの徹底と人としての尊厳を損なわない様、常に職員間で検討をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いを見出し、外出、食べ物、飲み物、受診などある程度、本人が選択できる様に場面作り、声掛けをしている。	○	出来る限り、本人が決定し納得しながら暮らせるように努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の中でふと思い出し、自ら行動に出る場合等は本人に付き添った、支援を行っている。その人の気分にそった対応を図っている。	○	強制するのではなく、職員が利用者に合わせて支援体制で取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好み、意向に副い美容室に出かけたりしている。また、資格を持った職員による支援もある。洋服等も自分で店で選んで購入して頂いている。	○	出来る限り、本人が出向いたり、望んだりできる様に取り組んでいく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人ができる事、できそうな事をして頂きながら、煮炊きの準備、盛り付け、片付け等、利用者と職員が一緒に行っている。また、彩りにも配慮している。	○	献立や郷土の料理を利用者と一緒に考えながら、取り組む。また、居室だけではなく、屋外での食事も考慮していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人に飲み物の希望を尋ねたり、おやつの際、欲しい物を選んで頂いたりしている。お酒を欲しい時は、ほんの少し嗜む方もおられる。	○	一方的ではなく、本人に選んでわくわく楽しめる取り組みをしていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを職員全員で把握しており、出来る限り失敗を少なくし、本人が気持ちよい状況になれる様に支援している。	○	排泄パターンの周知、しぐさ、行動を見守りながら、安心、安全な排泄の支援をおこなう。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯は、特別には決めていないが、時間帯により難しい場合もありシャワー、清拭などで対応する時もある。	○	時間帯の対応は難しいところがあるが、習慣、希望など本人の意向にそうように、検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人、一人の居心地の良い場所があり、職員も把握しており、随時対応ができています。また、不安時など添い寝や会話などしながら安心できる様に配慮している。	○	心身状況を職員全体で把握し、安心、安楽を維持できる様支援していく。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのしたい事、得意とする事、できる事等、お願いして手伝って頂いたり、野菜の作り方や漬け方等教えて頂いたりしている。地域の行事に参加したり、ドライブ等気分転換に努めている。	○	日常生活の中で、本人の役割・楽しみがもて、めりはりのある暮らしができる様支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、自分でお小遣い程度を持参している方や、事業所が管理している人でも、買い物の際にお金を手渡して支払いをして頂いたりしている。	○	小額でも所持して頂きながら、安心感や買い物など楽しみ、喜んで頂ける様、配慮したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、外出の機会の際には、希望を聞くと返事を返す方や、挙手される方もおられる。また、心身状況に留意し、外出の声かけや、促したりしている。	○	外気に触れる機会を増やし、ストレスの軽減、心身の安定に配慮する。馴染みの場所へ行き散歩や、交流に努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出の際は行事予定を立て、調整を図りながら支援している。個別での外出も、職員間で検討し取り組んでいる。	○	本人の希望、実現へ向け職員、家族とともに検討しながら支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望がある場合は、電話をかけたり、かかってきたりして、ゆっくりと会話されている。また、工夫し年賀状を送ったりしている。	○	いつでも安心して、電話連絡したり、手紙でお便りされたり、プライバシーに配慮しながら支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは、定めておらず、いつでも都合の良い時に来所されている。ゆっくり団欒できる様に飲み物など御もてなしや、雰囲気作り、会話に努めている。	○	いつでも気兼ねなく訪ねて来られ、居心地良くその時間を過ごして頂ける様に、職員全体で心掛けていく。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、理解を深める為、職員全体での勉強会も行っている。日頃の介護において、拘束の対象になる行為がされていないか等、周知徹底に努めている。	○	常に振り返りながら、職員間での情報共有を行い、安心、安全な暮らしに向け取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員同士、見守り、声掛けをおこない、外へ出そうになったら一緒に行動し、状況を伺いながら対応している。	○	状況を観察し、本人が安心して暮らせる取り組みを職員間で周知し、配慮していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアの職員がお互いに声掛け、見守りを行いながら、日中を過ごしている。夜間は、時間毎にさりげなく、安否の確認を行っている。	○	職員同士、見守りをおこない、様子を察知し、安全に配慮していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の状況に応じて、職員の見守りの中での取り扱いや、また、針などの使用の際は、本数の確認をおこない使用して頂く等、配慮している。	○	職員は、利用者の様子を把握しており、一人ひとりの状況に合う対応に努めていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとや事故報告書に記録し、会議の折に個々の至った背景や原因の予防対策について検討している。	○	職員の共有理解を図り、個々のリスクを検討し再発防止に取り組んでいく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力により、全職員が蘇生術(AED含む)救急手当で研修を実施し、習得に向け取り組んでいる。	○	様々な状況に備えた対応方法について、まだ周知の必要性が求められる為、定期的に研修を実施し、継続して取り込んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、年に2回の避難訓練の実施は本より、2ヶ月1回の昼夜想定での避難訓練を全職員で実施、習得へ向け取り組んでいる。地域の協力体制は、運営推進会議等で働きかけている。	○	避難訓練の取り組みは、実施されているが、地震(マニュアルはあり必需品の検討済)・水害などについての習得に努めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の心身状況、職員の対応等、様子見て頂ける様に、できるだけ来所の機会づくりに努め、家族へ説明している。	○	実態を予測し、予防対策を図りより良い家族への理解に向け、取り組んでいく。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送りは本より、気付きを大切に異変を察知し、全職員での情報交換を密に共有しながら、早期対応を図っている。	○	一人ひとりの健康管理に留意し、早期発見、対応を図っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに処方説明書を綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬もきちんとされており、処方の変更時の確認、体調の変化時の主治医との報告も行っている。	○	服薬による、症状の変化等に留意し、職員・医療機関・家族との連携を図っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分、排泄チェック表の把握をし、食材の工夫や運動により、できるだけ自然に排泄ができる様配慮している。医療機関との情報交換も行いながら、予防・対策へ向け取り組んでいる。	○	個々の心身状況、排泄パターンを把握し安心して排便ができる様に配慮していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に応じた声掛けや介助により、毎食後の歯磨きやうがいを行っている。口腔ケアについての施設全体の研修会も定期的実施されており、職員もその把握に努めている。	○	一人ひとりの残存機能を活かし、口腔ケアの重要性を把握していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事・水分摂取量の記録をとり、おおまかに栄養摂取量を把握している。また、食欲を促し、摂れるように工夫している。その人に応じた食事支援を行っている。必要に応じて栄養士に相談している。	○	一人ひとりにあつた食事形態、調理方、食材の工夫などに配慮し、体調の安定に努めたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり、情報収集を行い予防対策に努めている。インフルエンザ摂取も家族・利用者の同意を得てされている。職員全員も接種している。	○	職員間の情報提供を行いながら、早期発見・治療に向け取り組む。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の点検を毎月行ないチェック表の記録を行っている。食材も日付の確認をし、衛生管理に努めている。	○	衛生管理についての把握をし、取り決めの実施を継続していく。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭の芝生、垣根や玄関周辺に季節の花を植え、スロープ・手すりにて安心・安全で明るい雰囲気づくりになる様に配慮している。	○	定期的に、環境整備を行いホームの雰囲気大切にしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は和室になっており、仏壇、床の間や押入れ、テレビ等設置し、家庭的な雰囲気をつくり、玄関周辺には、芝生、プランター、垣根などやわらかな環境に配慮、廊下のソファは落ち着く場所を確保されており、自然の光り、風を感じながら工夫している。	○	一人ひとりの生活空間の居心地の良い場所、活動しやすい場所を職員間で共有し心身の安定に配慮していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のあちらこちらに、ソファを設置し居間の和室には、ゆっくりとくつろぐそれぞれの居心地の良い場所がある。お互いに会話もされている。	○	共有空間の中で、それぞれに落ち着く場所の把握をし、安心した暮らしを支援していく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品、テレビ、仏壇、衣装箱、冷蔵庫、布団など、本人が見慣れた空間に配慮し、その人らしく過ごせる様に努めている。	○	不安の軽減に配慮し、自分らしい部屋づくりに職員間で取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、各部屋の窓を開け換気している。部屋には、湿度計、温度計を設置し、しのぎやすい状況の把握を職員間で行っている。玄関、トイレの臭気もこまめに対応している。	○	一日の流れの中で、一人ひとりの心身の状況を観察し、自然環境に配慮した温度調節を行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行安定の為に手すり、浴槽の滑り止め、玄関のスロープの設置。洗面台、台所の流し、物干し、タンスの高さ等、利用者の視点で配慮している。車イスを使用している方もおられ、それぞれ自分に見合った物に配慮している。	○	本人の心身状況に応じて、安全、安心の生活ができる様に、取り組んでいく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	フロは、「ゆ」と温泉マークをつけ、トイレ2箇所には、廊下から見える様に矢印と絵のシールをドアのガラスに貼っている。各部屋には表札、写真、視点に合わせた氏名や番号等で確認をしている。全盲の方もおられ、鈴付きのぬいぐるみを取り付けている。状況に応じて検討している。	○	自分の力のできる所の把握を職員間で情報共有し、それぞれに応じた対策を図り、落ち着いた生活ができる様に取り組んでいく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周には、芝生があり、イスを設置したり、敷き物で寝転んだり外気浴を行ったりする。畑に季節の野菜を植え、収穫の喜びや花壇の手入れも行っている。最近では、スロープにて涼しんだり、景色を眺めたりしている。	○	外周の環境を活かしながら、馴染みの暮らしや楽しみの場として取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない